学校事例 1

宮崎県立宮崎大宮高校

生徒主体の行事が自主自律の精神と人間性を育む

121年の歴史がある宮崎県立宮崎大宮高校では、多くの行事を、生徒会を中心に生徒自身が運営している。全校生徒が参加する行事も多く、生徒会だけでなく、普通の生徒にとっても成長の場となっている。

生徒が企画・運営し、反省会まで行う

宮崎県の中心部に位置する宮崎県立宮崎大宮高校は、旧制中学を前身とする伝統校で、代々受け継がれている行事が多数ある。そのほとんどは、生徒会を中心に生徒自身の手で運営されている。生徒指導部の高原博先生は、次のように説明する。

「規模が大きな行事は、行事ごとに実行委員を募集し、生徒会役員を取りまとめ役として、企画、準備、渉外、広報、当日の進行など、すべて生徒が行います。該当行事を担当する教師は裏方としてかかわりますが、それ以外は担任でも手を出すことはありません。終了後は、生徒会及び実行委員会で反省会を開き、改善点は次年度への引き継ぎ事項としています。行事はまさに、本校の校是である『自主自律』の実践の場なのです」

同校は、行事を通して生徒にどのような力を付けてほしいと考えているのか。進路指導部長の黒木篤先生は、それを「社会を生きていく力」と語る。

「本校は、県や国、そして世界に出てリーダーとなるような人材の育成を目指しています。そうした人材は、学習だけではなく、行事や部活動を通して育つものと考えます。集団で一つのものを作り上げることは、困難の連続です。意見が対立したり、作業が思うように進まなかったり、不本意でも全体の方針に従わなければならないこともあります。だからこそ、困難を乗り越えて成功した時の充実感は格別であり、それを共有した仲間の大切さを知ることが出来るのです。そうした濃密な人間関係を通して、コミュニケーション能力を身に付け、何があってもやり抜く強い精神力が培われることを目指しています」

学習だけでなく、行事も部活動も一生懸命に取り組む。いろいろなこ

PROFILE

宮崎県立宮崎大宮高校

◎1889年開校の尋常中学校の流れをくむ伝統校。1989年に文科情報科を設置した。大宮精神として「自主自律」「稚心を去れ」「質実剛健」を掲げ、知・徳・体の調和のとれたたくましい人材の育成を目指す。部活動の加入率は、各学年とも80%を超える。

設立　1889（明治22）年

形態　全日制／普通科、文科情報科／共学

生徒数（1学年）　約400人（現1年生のみ約440人）

10年度入試合格実績（現浪計）　国公立大は、東京大、京都大、大阪大、神戸大、九州大、宮崎大など271人が合格。私立大は、慶應義塾大、明治大、早稲田大、同志社大、立命館大、西南学院大などに延べ302人が合格。

住所　〒880-0056　宮崎県宮崎市神宮東1-3-10

電話　0985-22-5191

Web Site　http://www.miyazaki-c.ed.jp/miyazakiohmiya-h/

とへのチャレンジを奨励し、生徒の自主性と自律心を育てる。これが同校の指導方針だ。

「帰属意識」「達成感」「リーダーとしての意識」醸成が狙い

同校の行事の特色は、年度前半に全校生徒参加の行事が集中していることだ（図）。

「年度始めに生徒全員が参加する行事をきちんと遂行することで、学校としてのまとまり、クラスのまとまりが出やすくなります。校歌を皆で声を合わせて歌うことも多く、特に1年生にとっては愛校心がわき、学校への帰属意識を高められるという効果があります」（高原先生）

生徒主体の行事の中で、自分の役割を遂行する使命感を持ち、うまくいった時の達成感を味わうことで、自分が周囲に役立ったという実感と自信を醸成することも狙いの一つだ。

行事を通して、リーダーとしての意識も醸成されるという。

「本校の生徒会長には、学校の人気者が選ばれます。また、リーダーになることが、素直に『かっこいいこと』と感じる生徒がたくさんいます。そうした生徒が、行事を通して先輩の活躍を見て憧れを抱き、自分たちも先輩のようになりたいと思うようになります。この好循環が定着しているのが、本校の強みです」（高原先生）

「リーダーでなくても、その過程で仲間と衝突することがあるはずです。そうした苦い経験をしているからこそ、リーダーとして皆を動かしている生徒に尊敬の念を抱きますし、集団としての規律を守るようになるのです」（黒木先生）

同校の行事は、生徒会役員だけでなく、多くの生徒が積極的に運営にかかわる点が特徴だ。生徒会役員は各行事の中心的な役割を担うが、規模の大きな行事では、新たに実行委員とスタッフを組織して行事の企画・運営をする。実行委員は有志だが、希望する生徒は多い。委員やスタッフとなる生徒は、年間延べ200人に上る。9月の弦月祭のスタッフだけでも110人もいる。

「生徒会役員のように常時、行事にかかわるのは時間的にも体力的にも厳しいけれども、行事を盛り上げたいという生徒は大勢います。ある意味で『二番手』の仕事に積極的に

図　生徒主体で実施する主な行事（年度前半）

4月　「新入生オリエンテーション」

入学直前の新1年生に校歌・応援歌の練習、校内見学、部活動紹介などを行う。新入生への歌唱指導や校内案内などを担当するチューターは、新2、3年生から募集する。2010年度は134人が応募。意気込みなどをエントリーシートに書いてもらい、生徒会役員で選考し、教師が確認して約90人に絞った。チューター指導や当日の運営は生徒会役員が行う。

4月　「歓迎遠足」

全校生徒で近隣の公園に行き、午前中はクラス対抗のレクリエーションを実施。午後はクラスごとの自由行動となる。最後に全校生徒で公園内のゴミを拾うのが恒例。実行委員が中心となり運営する。

5月　「4校定期戦」

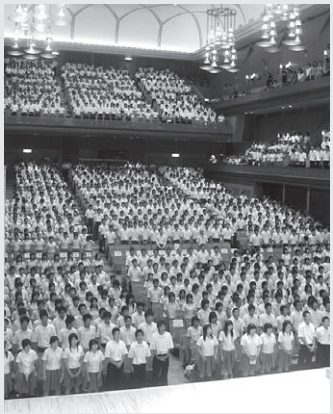
市内県立普通科系高校4校による野球の交流戦。全校生徒が甲子園のスタイルで応援合戦を繰り広げる。応援は生徒会役員と応援団が指導し、事前に全校で練習する。当日、生徒約1200人を誘導するのは生徒会役員と実行委員。あらかじめクラスごとに座席表を作って利用ゲートなどをシミュレーションし、クラス代表に伝達。短時間で移動できるようにしている。同校が当番校となった2009年度は他校との調整も担当。

7月下旬～8月上旬　「オープンスクール」

中学3年生とその保護者を対象とした学校説明会。学校説明や部活動紹介の企画・運営を生徒会役員が担当。校内案内役のチューターを1、2年生の各クラスから2人募集する。2日間で約1400人が来校。

9月上旬　「弦月祭（文化祭）」

同校最大の行事。実行委員を募集・選考し、7月から本格的な準備に入る。内容は、クラス対抗の合唱コンクール、各文化部の公演や展示・発表、全校生徒でのシンポジウムなど。地域住民も大勢来校する。



弦月祭での合唱の様子。生徒全員で歌う姿は圧巻だ

参加する生徒が多くいることが、学校全体として行事が活性化している要因だと思います」（高原先生）

大勢とのかかわりの中で自分を客観視できる

こうした行事を、生徒自身はどのように捉えているのだろうか。現在3年生の第110期生徒会総務委員長は6月に任期を終え、自身の活動をこう振り返る。

「生徒会役員や実行委員の仕事は大半が裏方であり、他部署との連携で物事が進みます。忙しい時ほど連絡を取り合うのが難しく、些細なことで進行が滞ることもありました。でも、行事の成功を見て、自分が役に立ったと思う瞬間は何にも代え難いものがありました。また、スタッフはもちろん、先生や先輩など、いろいろな人とかかわる中で、自分の悪いところや良いところが見え、少しでも成長できたかなと思います」

2年生の時に友だちに誘われて生徒会役員になったという生徒は、忙しいからこそ時間の使い方がうまくなったと話す。

「行事の運営では一人ひとり、役割が異なり、他の人を頼ることは出来ません。行事を通して、自分に割り当てられた仕事に使命感を持って取り組む楽しさを感じました。また、宿題や生徒会の仕事で毎日が忙しかったからこそ、優先順位を付けて物事を進められるようにもなりました」

宮崎県立宮崎大宮高校
黒木 篤 Kurogi Atsushi
教職歴20年。同校に赴任して11年目。進路指導部長。「当たり前のことを当たり前に」

宮崎県立宮崎大宮高校
高原 博 Takahara Hiroshi
教職歴17年。同校に赴任して7年目。生徒指導部。「充実した学校生活＝青春をしっかり送ってほしい」

行き過ぎないようブレーキをかけるのが教師の役目

生徒が作り上げる行事において、教師が果たす役割はどのようなことなのだろうか。

「生徒は何事にも一生懸命で、責任感も強いのですが、それが裏目に出ることもあります。物事を強引に進めようとしている時などには、一呼吸置かせて考えさせるようにしたり、教師が調整をしたりしています。また、生徒が新たな提案をする時は、最初から否定しません。まずは生徒の考えを聞き、学校として出来ること・出来ないことを説明しています」（高原先生）

数年前には生徒の負担があまりにも大きくなったため、弦月祭のクラス展示を取りやめたという経緯がある。現在では準備の解禁日を設けた。練習や準備が行き過ぎないよう、教師はブレーキの役割を果たしているようだ。

行事と学習のメリハリが課題

行事に積極的に参加する生徒がいる一方で、関心の低い生徒も一定の割合で存在する。そうした生徒に少しでも学校に目を向けてもらおうと、生徒会では意見箱を設け、投書には必ず回答をする。また、毎朝校門に立って挨拶運動をし、生徒会活動を身近に感じてもらう取り組みを行っている。生徒会自体が生徒を巻き込む試みをしているところも、同校ならではといえる。

オープンスクールは、以前は教師主体で運営していたが、08年度に生徒会の運営に切り替えた。生徒主体で学校を盛り上げているという特色を、中学生に直接的に伝えたいと考えたからだ。その狙いは的中し、以前にも増して、中学校でリーダー的存在だった生徒や行事に積極的な生徒が志望するようになったという。

課題は、行事を通して培われた自主性と自律心を学習に結び付けることだ。

「行事と学習とのメリハリをつけることが大切ですが、どうしても学習が疎かになりがちです。学年集会では学習のことを忘れないように常に促しています。3年間という限られた時間の中で、少しでも人間的に成長し、社会で強く生きていける生徒を育てるために、まだまだ多くの課題があります」（黒木先生）